

平成26年度

練馬区立光が丘第八小学校

【 国語科 】

	指導の配慮点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導など)	観点別の授業改善の視点				
		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	話す・聞く能力を向上させるための手だて	書く能力を向上させるための手だて	読む能力を向上させるための手だて	知識・理解・技能を向上させるための手だて
導入	(授業規則)チャイム着席、あいさつ、話の聞き方、持ち物の確認をし、学習規律を確立する。 (板書) 本時の単元名・課題を板書し、課題をつかませる。前時までの学習を思い起こさせる。 (教材提示) 実物投影機、カラーコピー、ビデオ、本、実物など、児童の気持ちを引きつけるような効果的な教材の提示を工夫する。	・本時のめあてを確認させる。 ・視聴覚器材を活用して、児童が疑問をいだいたり興味をもてるような教材の提示をする。	・子供が学習活動に興味をもてる範読をする。 ・音声言語のための教材を活用するなどして、指導の効果を高めるよう工夫する。	・本時の学習に合わせたワークシートを用意して丁寧に視写をさせる。 ・ノートには課題、自分の考え、黒板の板書を丁寧な文字で書かせる。	・句読点に注意して、言語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて読ませる。	・正しい言葉の使い方など言語事項が身に付くよう、ノートなどに正しい文を視写させる。
展開	(発問) 児童の考えを引き出し、他の児童の考えと関連させられるような発問を工夫する。 (ノート指導) 自力解決する時間を十分確保する。 (話し合い) 表現活動の目的・相手意識をもたせ、意欲付けをさせる。まず自分の考えをもたせ友達の考えをよく聞き、自分の考えと比べたり関係づけたりして聞くことができるようにする。 (読み取る) 言葉に着目させ、教材文の内容を正しく読み取る。正しく読み取るためにワークシートを活用する。 (書く) 構成や表現方法の工夫を学ばせて、自分の文章や発表の中に生かしていく。 (授業形態) 友だちと学び合い意見进行交流するために小グループ学習の場を設定する。 (授業規律) 友だちが何を伝えたいのか理解しようと聞く、発表する人は相手に内容を理解してもらえるように発表するなど、話す・聞くの態度面意欲面の大切さを指導する。 (ノート指導) 学習内容の定着を図るため、新出の言語事項や今後の学習の参考になる事柄を板書する。 (評価) 簡単な自己評価を取り入れる。	・一時間で学習内容の分かるワークシートを作成する。 ・机間指導では、さらに考えを広げたり、考えのヒントになるような言葉をかけ、個々の意欲を引き出す。 ・友達同士の相談の時間を設け、教え合いや考えの交流をさせ学び合えるようにする。 ・児童の考えのよさを教師が認め、意見を発表しやすくする。	・相手や目的、意図に応じて、適切に話したり聞いたりする方法やどう評価したら良いかを児童がしっかりと意識できるように学習を構成する。 ・自分自身のことや経験したこと、社会に関わることなど、伝えたいという思いや願いが強くなるような活動を取り入れる。 ・グループで話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりさせる。	・大事な文に線を引き、書き込みさせる。 ・ポストイットの活用によって、書いた内容の思考を柔軟にさせる。 ・意図を明確にし、主題や要旨が明確に表れる文章を書くことを積み重ねながら、必要な情報を適切に取捨選択できる能力の育成を図る。 ・文章を読み直し、間違いを正したり、よりよい表現に書き直させる。	・叙述に即して読むとともに登場人物の心情を前後の叙述と関連づけながら、確かな読みができるようになる。 ・指示語や接続語と指示内容のつながりを明確にし、語と語、文と文の関係をとらえさせる。 ・漢字の読みについては日頃から読む機会を多くし、教科書や読書を通して漢字の読みの習熟と応用を図る。	・本文や関連資料を実物投影機で写し、確認を分かりやすくする。 ・本文中の一文字の大切さを気付かせる。 ・マインドマップを使って、内容をい視覚的にも分かるよう分析し、整理させる。
まとめ	(ノート指導) ノートのまとめには、本時の学習で分かったこと、もっと知りたいこと、疑問など次時につながることを書くように指導する。 (板書) 学習したことや発表したことなどを記録に残し、学級で学習活動を共有する。 (評価) 簡単な自己評価や友達への相互評価も取り入れる。 (授業構成) 今日の課題が解決されたか確認する。次時の学習内容を予告し興味や関心を持ってするようにする。	・簡単な自己評価や友達への相互評価を取り入れ、本時の学習を振り返るようにする。	・国語以外の教科においても自らの考えを発表する場面を積極的に位置づけ、国語科で身に付けた力を活用する場を意図的に設定する。	・他の教科や総合的な学習の時間にも、国語科で身に付けた力を活用する場を意図的・計画的に設定し、書くことへの習熟を図る。	・辞書利用の知識を確実に指導すると共に、日常的な場面においても、国語への関心を高め、積極的に辞書を活用する指導を充実させる。 ・図書室を活用する。必要な本や資料を選ぶことができるようにする。	・語句については、表現力や理解力を高めるといった観点から、日常的に語彙を広げていく。熟語の構成や漢字の成り立ちなどを言語小単元で指導する。他教科の学習においても語句に気を配り、語彙を豊かにさせる。